令和5年度 第1回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和5年7月4日（火）13:30～15:30

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員）	植田 麻衣子	植田公認会計士事務所 所長
	佐渡友 陽一	帝京科学大学生命環境学部 准教授
	高瀬 孝司	オフィスT 代表（委員長）
	豊島 ひろ江	中本総合法律事務所 弁護士
	原 久美子	公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事

（大阪市）	上田 大輔	建設局公園緑化部長
	木下 吉樹	建設局公園緑化部調整課長
	吉田 祥子	建設局公園緑化部調整課（動物園支援担当）課長代理
	橋本 明知	建設局公園緑化部調整課（動物園支援担当）係長

外2名

（法人）計6名

【議事要旨】

1 開会

2 委員長の職務代理者の指名について

- ・ 職務代理者：佐渡友委員

3 地方独立行政法人天王寺動物園の令和4年度業務実績評価について

資料1について法人より説明

<意見>

- ・ ファンクラブのPRの仕方は、元々天王寺動物園のファンの人にとってどうアプローチしていくかが大切である。そのためには、きちんとファンに繋がるような方法が必要となる。年パス所有者やクラウドファンディング支援者などにアプローチできれば、比較的効率性が高いのではないかと。（佐渡友委員）
- ・ ファンクラブの継続加入者の割合を上げる取り組みをすることで、常に支援してくれる方が増えていくのでは。それにプラスして新しい方の発掘もするという、二つの側面から考えてみてはどうか。（原委員）
- ・ イベントに力を入れているのは伝わる一方で、広報活動という面においては皿評価が多く、あまり力を入れているわけではないように見えてしまうのが残念であるため今後の改善に期待したい。（豊島委員）

- ・ 5 ページで「頑張った職員・成果を上げた職員にインセンティブが働く仕組みについては、様々な視点から引き続き検討を行う」と記載があるが、抽象的な表現になっている。職員のやる気にも繋がると思うので、今後具体化してほしい。(植田委員)
- ・ 職員のインセンティブとは決してお金の問題だけでないと思う。賞やコンクールでの受賞など、頑張った職員を評価して表彰するなど、職場から評価される形があるとやる気にも繋がるのではないか。いろいろな側面から検討してほしい。(原委員)

資料 2・3 をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

- ・ 各小項目に対する評価について、市評価案のとおりで妥当である。(全員)
- ・ 「計画管理者」や「専門技術員」などの公益社団法人日本動物園水族館協会の会員としての仕事は、自分の業務を持ちながらの兼職となるため、負担になる面もありながら、よりよい動物園を目指すために頑張っていたらと思う。(原委員)
- ・ 今後環境エンリッチメントを試みる際には、実施後の効果を記録したり、効果がなくなったものはやったきりにせず、新たな工夫に取り組んだりしていく必要がある。(原委員)
- ・ 環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングの状況をきちんと組織的に把握できて、全体像を評価できているということが素晴らしいと思う。(佐渡友委員)
- ・ クラウドファンディングは短期間ではなく時間をかけて準備をしてここまでの成果に辿り着いた。このように時間をかけてじっくり取り組んでこられたという点が素晴らしい。(豊島委員)
- ・ 保全活動について、環境省とタイアップするような事業が現時点で天王寺動物園ではあまり見られない気がするので、何らかの形で関わっていくという手はあると思う。(佐渡友委員)
- ・ 入園者数及び入園料収入については、予算より約 2 割上回っているため、定量的・機械的に評価して良いと思う。(佐渡友委員、豊島委員)
- ・ ファンクラブや入園料収入について、来園者や会員のセグメントを分けて目標数を立てるなど、園としての目標(どのような人たちにファンになってほしいか)を打ち出した方が良いと思う。(高瀬委員)
- ・ マーケティングとファンドレイジングについてはアドバイザーを入れるなど、組織的に外の知見を入れながら仕掛けることを考えていく必要がある。(佐渡友委員)
- ・ 寄附金の目標額とするのであれば、寄附金に含まれないファンクラブ会費は除いて考えるべきである。(植田委員)
- ・ 寄附は変動して当然なので、どのように毎年の予算や評価の中に位置づけていくのか、項目立てを含めて検討すべきである。(佐渡友委員)
- ・ 寄附金の中でも遺贈などの一時的なものと継続的なもので性格が分かれる。(高瀬委員)